

竹迫城惣構え跡発掘調査現地説明会

令和8年(2026年)1月24日
熊本県教育庁教育総務局文化課

竹迫城について

竹迫城は、鎌倉・室町時代に合志郡を治めた竹迫氏が築城した中世城です。竹迫氏は竹迫城を拠点に約330年間合志郡を治めました。

戦国時代になると、竹迫氏は豊後(大分)に移ります。竹迫氏に代わって、竹迫城を拠点として合志郡を治めたのが合志氏です。

しかし、1585年、薩摩(鹿児島)の島津軍に攻められ、合志氏は敗北、竹迫城は落城しました。その2年後、豊臣秀吉によって九州征伐が開始されると、島津氏は竹迫城を焼いて薩摩へ撤退していきました。

竹迫城惣構えについて

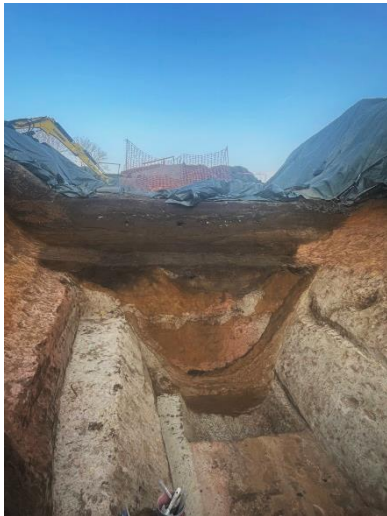
惣構えとは、城とその周辺の村や町を取り囲むように築かれた防御施設です。城の一番外側の外郭施設として築されました。

竹迫城惣構えは一周約6kmに及び九州屈指の大きさです。竹迫城を中心に、城下の町や村、田畑を堀と土塁で囲んで、竹迫の町を守っていました。いつ、だれが築いたのか確証となる文献はありませんが、戦国時代の合志郡は周辺諸国の戦国大名からたびたび攻められているため、合志氏が龍造寺氏(肥前:佐賀)や島津氏(薩摩:鹿児島)を警戒して築いたと考えられています。

竹迫城関係略年表

| | | |
|------------------|--------------------|---|
| 鎌倉時代 (約800年前) | 竹迫氏の統治 (約330年間) | 中原師員(後の竹迫輝種)が合志郡の地頭職に任命され、竹迫城を築く。 |
| 室町時代 (約650年前) | | 佐々木長綱(後の合志四郎入道宗真)が 大津町に館を築く。 |
| 1510年 | 合志氏の統治 (約80年間) | 竹迫氏が大友家に従って豊後(大分)に移る。 合志氏が竹迫城主として入城。 |
| 1585年 | | 合志氏、島津軍に敗れる。竹迫城落城。 |
| 1587年 | | 豊臣秀吉が九州征伐を開始。 島津氏は竹迫城を焼いて薩摩へ撤退。 |

※諸説あります。



【土塁と堀】

土塁は幅約10m、高さ約2mあります。基礎となる土台を形成したり、端部に粘土を貼ったりして、丈夫に築かれています。

堀は、幅約10m、深さ約5m、逆台形の形をしています。土塁と合わせると高さは約7mにも及び、壁のように急角度でそびえ立ちます。

一度堀底に落ちたら、到底登ることなどできません。

【土塁後背の平坦面】

土塁の後ろ側に広がる平地は、何層も積み上げて築かれた人工的な平坦面です。わざわざ積んだ土を掘って、もう一度積みなおすということも行われています。

これほど丁寧に整地しているので建物跡の存在を期待しましたが、見つかりませんでした。

調査区の外側の平坦部には建物跡などの遺構が残っているかもしれません。



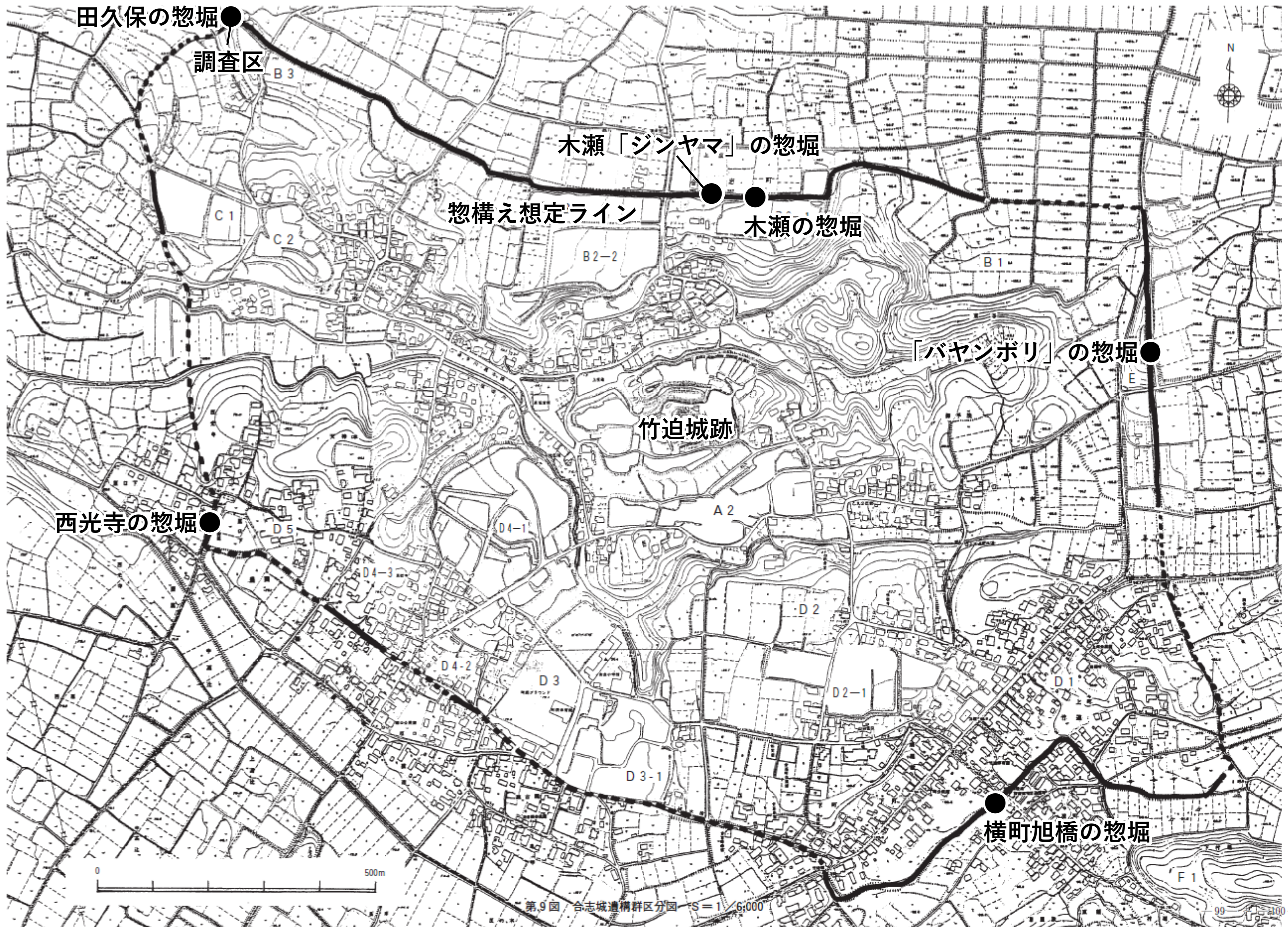
【馬のお墓】

1辺約2m、深さ約1.6mの大きな墓穴が見つかりました。誰が埋葬されているのだろうと思っていたら馬でした。

前脚と後脚をきれいにそろえて、「くつわ」を口につけたまま、全身の骨がほとんど残った状態で出土しました。

とても丁寧に埋葬されていましたが、その理由は分かりません。

ちなみに、メス馬です。



竹迫城と惣堀えの想定ライン

『陣の内遺跡』（合志市2007）に加筆